

出席：小佐野・塩谷・小西・三角・松村・高橋・渡部・中垣・加藤・山本（晋）・佐々・大野・
真中・岡本・山本（真）・坂本

1. 異動等による役員の補充及び第 27 期役員についての紹介

山中・池田・神野各氏の異動等による役員失格・辞退と塩谷・中江・坂本各氏の役員補充が報告された。また、第 27 期役員選挙は立候補者がそれぞれ役員の定数内のため、全員無投票当選となり、新任者となった渡部、中垣、山本（晋）、佐々、岡本各氏の紹介があった（総会資料 1、2 参照）。

2. 2006 年度支部奨励金受領候補者、及び 2006 年度研究グループ助成について

奨励金受領候補者について該当者はないが、研究グループ助成について岡山理科大学の大橋氏を代表者とする「局地風の数値モデリングに関する研究グループ」から申請があり、常任理事会で審議のうえ助成を行うこととした旨、報告された。

なお、今後は恵まれない環境で調査研究を推進している個人、グループに対して行う奨励金の制度をより充実し、助成については廃止する方向を検討すべきとの意見が常任理事会で出され、検討を行っている旨、報告された。意見がある場合は常任理事会に出していただきたい。

3. 総会資料の検討

2005 年度の事業報告（案）、会計報告（案）、及び会計監査報告（案）の説明が各担当から行われた（総会資料 3 及び別紙資料参照）。会計監査担当の真中氏から夏期大学の別会計化とテキストや要旨集の在庫数をチェックした上での財産目録化の提案があったが、今後改善に向けての検討を進めることとした。

続いて、2006 年度事業計画案と予算案について担当理事から説明があった（総会資料 4 及び別紙資料参照）。今年度は昨年開催された秋季大会がないほかは例年通りの事業計画である。夏期大学について講義中心で進める予定であること、また先に説明した奨励金の受領者の推薦は各地区で取り組んでいただきたいとした。

関西支部ニュースの発行については今年度からすべて発行通知を E メールで各会員に連絡し、WEB 掲示のみで原則郵送は行わない。

昨年度からの懸案である「支部会員の種別化」については、2004 年 8 月から既に本部で実施している形をそのまま準用し、今後通常会員のみ選挙権や議決権（総会案内、資料送付）を持つこととする。このための規約等の改正は不必要との説明がなされた。

なお、支部ニュース発行通知のために整備されたメーリングリストの活用法については第 27 期常任理事会で検討することとなった。

<2006 年度気象学会関西支部総会>

松村理事の司会で総会が始まった。参加者と委任状をあわせて 291 名あり、全支部会員数 563 人の過半数を超え総会は成立する旨、高橋理事から報告された。

続いて、小佐野支部長から次の主旨で開会の挨拶があった。

昨年の秋季大会は神戸大学を始め各位のご努力により成功裏に終わることができ感謝している。気象災害を始めとする国家的プロジェクトとしての防災に関しては、東京のバックアップ機能を関西が担うことになっている。これに倣い、当気象学会においても関西支部が確たる位置を確立する必要がある、引き続きご協力をいただきたい。

その後は、西会員を議長に選出し議事が進められた。

用意された 2005 年度事業報告・決算、2006 年度事業計画・予算ほかその他の議案については原案どおりすべて賛成多数で承認された。

質疑応答が行われた主な事項は次のとおりである。

夏季大会が去年は定員 80 名に対して参加者は 63 名で定員割れとなっている。定員割れを防ぐ対策をとってほしいとの意見があり、各大学への働きかけやポスターを利用して教育委員会等への依頼を計画しているとの回答が行われた。

また、気象庁の OB 会員から

行政改革に伴う公務員削減計画で測候所の全廃が計画されているが、測候所は観測統計期間が長くしかも都市化の影響があまりない気候の観測に適した地点が多くある。また、富士山測候所の有効利用が計画されつつあるが、近畿管内の伊吹山、剣山の山岳観測所の跡地がそのままになっている。測候所の存続や山岳観測所跡地の活用について、気象学会としての提言ができないものだろうか。また、総会への気象台職員の参加が極端に少ないが何とかならないかとの意見があった。

これに対して小佐野支部長から測候所は廃止されることになっても特別地域観測所として目視項目以外のデータは観測が継続されること、伊吹山観測所の建物は廃止からかなり年月がたち再利用は困難なことを説明された。さらに同席された廣田本部理事長からはこれらに対する気象学会としてとるべき立場について、全国理事会でも検討されるよう支部と本部のパイプを太くされるよう望むとの発言がなされた。

<2006 年度気象学会関西支部年会>

総会では多かった空席が年会では発表に関係を持つ学生らの多くの出席により立ち見が出るほどの盛況となった。昨年と同様発表件数は 12 件と多く、発表時間は質疑も含め 13 分とした。

座長は前半を小西理事、後半を府立大の重氏が担当し、それぞれの発表と質疑が行われた。今回の発表内容はメソ気象から気候、新しい観測手段による気象解析さらに教育分野まで及び昨年同様幅広いものとなった。17 時の終了時間ぎりぎりまで、熱心な発表と質疑が繰り広げられた。